

第3学年 算数科学習指導案

指導者 京都市立新町小学校 矢野 清香

1 日 時 令和8年1月26日（月） 第5校時（14:00～14:45）

2 学年・組 第3学年1組（33名）

3 単元名 □を使った式

4 単元の目標

- (1) 数量の関係を、□を用いて式に表すことができ、□にあてはまる数を求めるができるようになる。
- (2) 数量の関係に着目し、数量の関係を図や式を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりすることができるようになる。
- (3) 数量の関係を表す式に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとする態度を養う。

5 単元の評価規準

知 ・ 技	①□を使った式に表したり□にあてはまる数を求めたりすることができる。
思 ・ 判 ・ 表	①□を使って、問題文を図や式に表し、説明している。
態	①言葉の式や□を使った式に関心をもち、進んで活用しようとしている。

6 単元について【児童観・指導観】

学習内容や資質・能力に関わる児童の実態	児童の実態に対する具体的な手立てや支援
・「九九の表とかけ算」の単元において、□で示されている乗数や被乗数を、九九の表や九九を使って求めることができた。 (知識及び技能)	・九九の表のかける数とかけられる数を確認し、答えを見付けられるようになる。
・「見方・考え方を深めよう」の単元において、問題の解決の方法として、図にかいて考えることができたが、線分図のかき方は定着したとはまだ言えない。 (思考力・判断力・表現力等)	・問題文と式、線分図を結び付けて、数量の関係を捉えられるようになる。
・「間の数」の単元において、図に表すことのよさに気付き、問題解決の際に進んで活用し、順序や間の数の問題に取り組もうとすることができた。 (学びに向かう力・人間性等)	・実演をすることで、問題場面のイメージをもてるようになる。

7 指導計画 【指導のポイント 両手立て !配慮事項 他教科等との関連 ②個別支援 ICT 】

時	指導のポイント	評価	
1	<p>○分からない数を□として式に表すよさに気付き、□を使った式に表す。</p> <p>◆分からない数を□として式にかこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1袋のあめの数を□として考えると式でできます。 ・分からない数があるとき、分からない数を□とすると式でできます。 	<p>△1袋のあめの数に具体的な数を当てはめて、あめ1袋+4が全部の数になることを明らかにする。</p> <p>△□には10、11、12…といろいろな数が当てはまることを確かめる。</p>	知 ①
2	<p>○□を使った加法や減法の式の表し方、□に当てはまる数の求め方を考え、説明する。</p> <p>◆□にあてはまる数のみつけ方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・□に、いろいろな数をあてはめて考えると、あてはまる場合の数を求めることができます。 ・図にかいて考えると、式にしてあてはまる数を求めることができます。 	<p>△□に数値を代入して考えるときには、□に当てはまる数の見当を付けてから代入するとよいことに気付けるようにする。</p> <p>△問題文だけでは場面のイメージができない場合は、具体物を操作しながら視覚的に場面を捉えられるようにする。</p>	思 ①
3	<p>○□を使った乗法の式を用いて、□に当てはまる数を求める。</p> <p>◆□にあてはまる数のみつけ方を説明しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たし算やひき算の時と同じように、数を一つずつあてはめていくと場面に合う答えを見付けることができます。 ・たし算やひき算の時と同じように、線分図をかいて式にして考えると場面に合う答えを見付けることができます。 	<p>△□に当てはまる数の見当を付けて、代入したり線分図を用いて考えたりできるようにする。</p>	知 ① 態 ①
4 ・ 5 本時	<p>○問題場面から分からない数を□として、文と図と式を対応させて考え、説明する。</p> <p>◆いろいろな問題文をつくって、それに合う図や式にかこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分からない数を□として表すと、問題文のとおりに図や式をかくことができると分かります。 <p>○単元における学びを振り返る。</p>	<p>△問題場面を基に分からない数を自分で設定することで、問題ができるることを確かめられるようにする。</p> <p>△一つの問題文に文と図と式をかくようにすることで、分からない数を□として表すと問題文の通りに図や式をかくことができることを確かめる。</p> <p>ICT 学習支援ソフトを活用して問題作りをし、交流する。</p>	思 ① 態 ①

8 本時について (5/5)

(1) 目標 □を使って、問題文を図や式に表し、説明している。

(2) 展開

○学習活動 ◆発問 ・児童の反応	◇支援 *留意点 ☒個別支援 ☑評価
<p>1. 課題把握</p> <p>○これまでの学習をふり返る。</p> <p>◆これまで、どんなことを学習してきましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・□を使った式のつくり方です。 ・分からぬ数を□にします。 ・□にあてはまる数の見つけ方です。 	<p>◇これまでに取り組んできた問題を掲示することで、ふり返ることができるようする。</p> <p style="text-align: center;">問題を図や式に表し、せつめいしよう。</p>
<p>2. 自力解決</p> <p>○問題文、図、式を考え、ロイロノートのカードにかく。</p> <p>◆自分で問題文を考え、それにあう図や式もかいてみましょう。</p>	<p>*学習支援ソフトのカードを使って、問題文、図、式をかく。</p> <p>【ICT 活用 〈図 1〉】</p> <p>◇単元で学習してきたことを掲示しておくことで、必要に応じて活用できるようする。</p> <p>◇一つの問題文に図と式をかくようことで、分からぬ数を□として表すと問題文のとおりに図や式をかくことができることを確かめる。</p> <p>◇問題の穴埋めのカードを送り、それを使ってもよいことを伝える。</p> <p>▲自分で考えることが難しい児童には、穴埋めのカード、これまでに取り組んだ問題のカードや、掲示物の中からどれを使うかを考えるように助言する。</p>
<p>3. 集団解決</p> <p>○友だちのつくった問題文を読み、図、式をノートにかく。</p> <p>◆友だちのつくった問題を解いてみましょう。</p>	<p>◇問題を学習支援ソフトで提出し、友だちのつくった問題を自分で見て、解けるようする。</p> <p>【ICT 活用 〈図 1〉】</p> <p>*3人でのグループ学習を取り入れ、お互いのつくった問題を解き合い、自分でつくった問題を説明する場を設定する。</p> <p>◇図、式が書けなかった場合、グループの友だちと一緒に考えればよいことを伝える。</p>

<p>4. ふりかえり</p> <p>○本単元、本時の学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分からぬ数を□にすると、問題文にあった図や式をかけると分かりました。 ・友だちの問題の線分図を考えるのが難しかつたけど、説明を聞いて分かりました。 	<p>□を使って、問題文を図や式に表し、説明している。(ノート、学習支援ソフトのカード、グループ学習の様子) 【思①】</p> <p>*新たに分かったこと、できるようになったこと、どんな力が身についたか、友だちとの活動で気づいたことなどを書くように伝える。</p>
---	--

(3) 評価

<p>【思①】</p>	<p>□を使って、問題文を図や式に表し、説明している。 (ノート、学習支援ソフトのカード、グループ学習の様子)</p>
<p>「おおむね満足できる」状況と判断できる「発言・記述」</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文にあった図、式を□を使ってかいでいる。 ・問題文、図、式を示しながら説明している。

(4) 板書計画

めあて 問題を図や式に表し、せつめいしよう。

あめが 1 ふくろと、ばらで 4 こあります。
あめは全部で 18 こあるそうです。

(ふくろに入っているあめの数はいくつでしょう。)

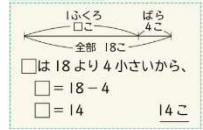
$$12+4=18 \quad \times$$

$$13+4=18 \quad \times$$

$$14+4=18 \quad \circ$$

$$15+4=18 \quad \times$$

18 になる□は 14 14 こ



20 こ入りのチョコレートのうち、何こか食べました。
のこりは 13 こになったそうです。

(食べた数はいくつでしょう。)

$$18-7=13 \quad \times$$

$$19-7=13 \quad \times$$

$$20-7=13 \quad \circ$$

$$21-7=13 \quad \times$$

13 になる□は 20 20 こ

いちごが同じ数ずつはいっているかごが 3 つあります。

いちごは全部で 36 こあるそうです。

(かごの中のいちごはいくつでしょう。)

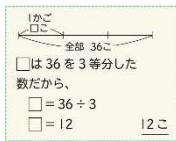
$$10 \times 3=36 \quad \times$$

$$11 \times 3=36 \quad \times$$

$$12 \times 3=36 \quad \circ$$

$$13 \times 3=36 \quad \times$$

36 になる□は 12 12 こ



32 このキャラメルを同じ数ずつ分けたら、8 人に分けられました。

(何こずつ分けたでしょう。)

$$32 \div 2=8 \quad \times$$

$$32 \div 3=8 \quad \times$$

$$32 \div 4=8 \quad \circ$$

$$32 \div 5=8 \quad \times$$

32 になる□は 4 4 こ

ふりかえり

(5) ICT 活用

① 指導者は、事前に学習支援ソフトのカードを用意して送り、それを使つてもよいことを伝える。

② 問題文、図、式を学習支援ソフトのカードにかいて、提出する。

③ 提出されたカードを大型テレビに提示し、つくった問題文、図、式を共有する。

